

『避難所運営ゲームHUG』第2回開催報告書

《建築士だからできるソフト面でのフォロー及び防災・減災について考える》をテーマに、去年に引き続き今回第2回目を6月10日（土）打田生涯学習センターにて「避難所運営ゲームHUG」を女性部会、設計部会合同にて開催しました。

東日本大震災以降、新聞・メディア等にて更なる巨大地震の発生の可能性が伝えられていますが、和歌山県も例外なく巨大地震の発生が予想されています。和歌山県ホームページの「和歌山県地震被害想定調査」報告書（H26年）によりまずと東海・東南海・南海3連動地震及び南海トラフ巨大地震を想定としています。南海トラフ巨地震の被害想定を少し紹介したいと思います。

想定震度 : 震度6弱 ～ 震度7
全壊・半壊棟数 : 約26万棟
ライフライン被害 : 上水道（約97万人） 電力（約50万棟）

以上のような被害が想定されているなか、一度巨大地震が起これば何らかの被害に遭遇し自宅等にて地震発生後も生活を続けるのは、困難かと思われ避難所生活を余儀なくされます。

地震発生後、避難所には沢山の人が避難場所を求めて集まってくる中無秩序に避難所を開放してしまうと本来避難できる人も避難できず、また支援物資等の受け渡し等が出来ず、避難所がうまく機能しない状態になってしまいます。

「避難所運営ゲームHUG」とは、こうした避難所にて起こりうる問題に対して机上のシュミレーションではありますが一人一人が地域のリーダーになったつもりで避難所の運営を考えていくものであります。

初めての参加者の方はもちろん、2回目の参加者も次々と起こる問題に四苦八苦していました。

トイレできるのか、病気・怪我の人、救援物資の受け渡し、報道関係・視察・ボランティア等への対応など考える時間も無く、今後の予想も立てにくい中出来るだけスムーズに避難所を運営出来ればとの思いが参加者の方から伝わってきました。

参加者の方からは、「大変だった」との声が聴かれましたが、知っているのと知らないのでは大きな差があると思いますので今後も「避難所運営ゲームHUG」を通じて少しでも避難所の事を知っていただければと思います。

